

市芦救援会通信

市芦救援会通信 通巻38号 90/2 (1部100円) 発行人 玉本 格
 市芦救援会 〒659 芦屋市剣谷9 市芦分会気付 TEL 0797(32)1131
 市芦反弹圧闘争を支援する会 〒650 神戸市中央区元町通5丁目3の16 テーラビル3F

日程 第25回審理 4月12日(木) AM10 小林証人 反対尋問

強配意図した定数配置の操作 指導員は事務職員と小林証言

市芦救援会事務局

去る二月三日、六二・六三年に強配された七人の先生について、小林前管理部長に対する処分者側主尋問が行なわれました。昨年末結成された兵高教は市芦反弹圧闘争支援を方針の一つとしているが本部・支部から多数の組合員が傍聴に参加され、他の支援団体・市民・会員の多くの参加のもと審理がはじまりました。六二年の六人の先生の強配について、前回の鈴木先生と同じく「行革大綱に基づく適正配置」とし、定数標準法に準拠して過員である、さらに定数条例について「実際に勤務する職員の数にあわせる」ことを理由に改正し過員解消をしたと証言。審理の打合せの仕様もないのか、ひきのばし作戦なのか、ダラダラした尋問が続く中で、六人の先生の配転理由については、「教職経験豊富」「資格を持つ」「熱心」という内容で、個人を特定する理由は何も証言されていません。争点となる指導員の身分については、「指導主事ではなく事務職員」と証言大巾な身分・職種変更を認めたものといえます。また、改正後の三二名の定数には三名の助教諭(臨職)は含まれておらず、「条例上は三名あき」と証言。三名の欠員を生み出してまで六名を強配したことになり、定数標準法にならった条例改正による「過員」を理由とした配転が、実は欠員を生み出してまでなされた不当労働行為であったことが明白になりました。

次回は主尋問の補足のあと、いよいよ反対尋問に入りますので、多くの方々の傍聴参加をお願いいたします。

も／く／じ

強配意図した定数配置の操作 指導員は事務職員と小林証言	市芦救援会事務局	1
第24回公開口頭審理報告		
七人の先生を特定できぬ配転理由 指導員は教員身分で事務職と証言	市芦救援会事務局	2
傍聴記 どこが適材適所や言うねん	尼崎定時制教師 Y	6
私の一生を貫き通すものは何か	「蟹工船」芦屋公演実行委員長 新谷彰宏	7
今、多喜二から受けつぐもの	劇団はぐるま座	8
麦の家・市芦そしてアウシュヴィッツ	田中道子	9
1/18国労スト連帯一日行動報告		
ガンバレ国労清算事業団の仲間ノとりもどそう国鉄ノ阪神地域の会		10
第5回芦屋教育井戸端会議報告 学区再編は誰のために行なわれるのか	市芦救援会事務局	11
各地でのたたかい	伊丹市での朝鮮人差別を考える会	15

寺内 理数系ということを強調したい点は。
 小林 文化系よりも特に理数系の学力をと。
 寺内 吉岡先生は。
 小林 同じく上宮川文化センターで。
 傍 理数系ちがうぞ。
 寺内 一つは小学校の教員免許をもって、
 同和教育に熱心で、そのへんを学促でと。
指導員は事務職員
 寺内 身分のことが問題になります。
 小林 教員の身分を保有したまま。
 寺内 辞令は指導員ですが、どういう方に。
 小林 職名に関する規則の中で、指導主事、
 指導員、社教主事とかの職名がありその一つ。
 寺内 どういう仕事をする方か。
 小林 指導主事に準じた、教育に関する業務
 にたずさわると。
 寺内 もう少し具体的にいうと。
 小林 学校教育に関する専門的事項に関する
 事務に従事すると……教育に関する識見を有
 して、経験の豊かな人というのに準じた人と。
 傍 わからん説明するな。
 寺内 公職名は。
 小林 芦屋市の規則で、事務吏員になります。
 傍 事務職への強配や。
 寺内 指導員は教員の身分ということですが、
 教員ですと地教法での位置づけは。

小林 私の方は、一九条の適用と。
 寺内 一九条二項に「各市町村の教育委員会
 では県教委の職員に準じた職員をおく」とな
 ってますが、それですね。
 小林 はい。
 寺内 指導主事に準じた仕事をされるという
 ことになる、指導主事は一九条一項ですが、
 それでないとどうなるんですか。
 小林 法令上の指導主事と事務職員とその他
 にわけられていますので、いわゆる事務職員
 に該当すると。
 寺内 六名全員か。
 小林 図書館勤務の方は配置がえによって地
 教法の三一条で。
 △給料表、教職調整額、特別手当等について
 は前回の鈴木先生に関する証言と同じ▽
三名欠員にしてまでも六名強配
 寺内 定数条例の市芦の三二名の中には助教
 諭は含まれるのか。
 小林 含まれてません。私の方の考え方とし
 て、標準法に基づいた教員配置を考えてまし
 たので、教諭・助教諭を含めて三二名という
 考え方でいて、定数条例の方には助教諭は含
 まれていません。
 寺内 助教諭は何名か。
 小林 三名。

寺内 三名は条例上はあいだ形になってると。
 小林 定数条例上はそうです。地公法一七条
 職員で、臨時職員は入りません。
 寺内 助教諭は二二条職員ですね。期限がく
 ればやめてもらうということで、三名につ
 いて条例改正に伴ってやめていただくことは考
 えなかったんですか。
 小林 あ……すぐにやめてもらうことにつ
 いては、前々からそれはしないと……
 寺内 身分保障ということ、組合から強く
 要望があったとかいうことは。
 小林 それもあって……
 傍 それと、組合員の強制配転とはちがうや
 ないか。
別件審理を悪用か？
 寺内 別件の長瀬先生の審理で証人が証言さ
 れてる中で、六三年の同じ異動の深沢先生に
 ついて、どういう点が配置がえの理由ですか。
 傍 別件の事や、手抜きするな。
 小林 教育研究所の充実をはかるということ
 で、コンピューター関係で、また市教委四〇
 周年で記念誌発行も研究所でやるという事で。
 寺内 身分は教員のままで指導員ですね。
 小林 地教法の一九条の事務職員ですが、
 研究所ということで三一条の事務職員と。

になってからやないか。校長に会ってたん
 やったら学校に出動せえと指導したんか(笑)
 寺内 国語以外で芸術でうごいてない先生も
 いるんじゃないですか。
 小林 ……えっ……芸術は吉岡先生が……
 寺内 いわゆる……音楽とかいろいろですね。
 小林 はあ……はあ……
 寺内 その中で吉岡さんが動いたということ
 ですか。
 傍 こんなとこで打合せするなよ(笑)

「適材適所」の強配で内示なし

寺内 受け入れ先の問題があると思うんです
 ね、適材適所というような。
 傍 教員は教員の所が一番適材適所やないか、
 △きびしい野次と時間ひきのばし的な尋問
 に対する分銅弁護士批判に、寺内氏ややす
 ねて、しばし尋問中断▽
 寺内 ヒヤリングの中で、受け入れ先としてど
 んな所を考えたのか。
 小林 学校教育課、図書館、同和教育課、市
 民センターとか。
 寺内 とくにどんな所への異動ということは。
 小林 あ……いわゆる教育関係というか、
 社会教育も含めて関連のある所へと。
 寺内 人事異動の内示はいつどういう形で。
 小林 三月二八日、掲示をして、掲示にかえ

るということで個々には出していませんで……
 傍 そんな内示はないぞ、掲示と内示は別や。
 寺内 学校長は何かいってましたか。
 小林 若干不明な点というか、学校における
 バランスの問題というか……講師の採用をお
 願いせいかんと……
 傍 講師を入れるんやたらとばす必要ないぞ。
 小林 とくに外人の英会話をするとか、コン
 ピューター関係とか、持ち時間の端数がでる
 ところがあるので、まあ円滑にするためだと。
 傍 一八時間の講師が端数か。
なんでもありの強配理由
 寺内 森村先生は図書館ですが、理由は。
 小林 七月に開館なので、準備、本の購入、
 選定、移転もあるの。
 傍 今度は引越しか。
 寺内 異動についてどういう考慮を。
 小林 読書相談、読書指導の業務があり、教
 師経験が豊富で、英語の先生なのでそのへん
 の市民啓発を期待して……(笑)
 傍 司書がいるやろ、何の関係あるねん。
 寺内 滝山先生は文化財係の配置がえですが。
 小林 まえまえから文化財について保護とい
 うか、埋蔵文化財の発掘について大変な仕事
 があり、前から増員要望もあり、とくに学芸
 員の資格も持ってるので、充実をはかると。

傍 資格を悪用するな。前もとはしてあかん
 というてもどしたやないか、同じことなんで
 くりかえすんや。
 △小林が傍聴席をふり回り威圧する目で睨む▽
 傍 証人がポケットに手つっこんで証言する
 なんていうのは横柄やぞ(笑)
 寺内 え……滝山先生に関しては……あの……
 それから小川先生に関してはどうですか。
 小林 みどり学級で、前から乳児関係の訓練
 についての増員要望がでており、障害児教育
 に非常に熱心であるということ。
 傍 乳児訓練ができるんか。
 小林 みどり学級の充実をはかってもらうこ
 とを期待して……
 傍 社会科は三人目やぞ。
 寺内 麻田先生に関しては。
 小林 県教委が受け入れるということで、了
 解をえたので、県へいってもらって芦屋
 市の体育行政に寄与してもらうことを含めて、
 一年間出張ということ。
 寺内 石橋先生は。
 小林 同和教育課で市長部局に出向というこ
 とで上宮川文化センターの方で、労力促進学
 級について、あり方については各学校から先
 生が来られてたんですが、その方式をかえて、
 専任の先生をおいてカリキュラムを組んでも
 らって系統的に学促を充実する方がいいと考
 えて。理数系の先生で。

「私は、敗戦後の中国で、これからどうなるのかという戸惑いの中で生きていました。複数の民族が、この不安の中で、いがみ合い、緊張の中で生きていました。中国解放軍がこの町に入ってくると、驚くことにすぐにこのいがみ合いが消えたのです」と振り返り「世界の流れに目を閉じて、今日の生活の続きは、また明日もあるのだと自分に思いこませ、権力に黙々とついて行くのか、それとも本当の自由と人権のある民主主義を自分の若い力で闘いとして行くのか、今日今からでも見つめて前進することを願っています」と、新谷さんは語る。こうした言葉の中に、新谷さんの生き方を貫いている背骨を感じることが出来ます。

新谷さんは、奴隷であることを気づかない奴隷が最も哀れである、という言葉強調され、特に若い世代に見てほしいと、はぐるま座『蟹工船』芦屋公演の成功をめざして精力的に活動しておられます。はぐるま座の人と一緒に芦屋市公平委員会第二回審理を傍

私の一生を貫き通すものは何か

「蟹工船」芦屋公演実行委員長

新谷 彰宏

聴のあと、市芦反弾圧闘争支援を運動方針に掲げた兵高教阪神支部結成大会にも参加していただき、次のメッセージをいただきました。

仕事を引退しまして、芦屋にきて三年ほどです。それまでは、会社の再建のために岡山で七、八年間やっていまして、芦屋にきました。

私は、侵略戦争で中国へわたって空軍に参加して、四年間、侵略戦争やって、敗戦になってそれから、航空技術の関係でといいますが、八路軍のもとで八年間、解放軍に入って技術教育の関係で解放軍と行動をとみにしてきたわけです。戦前は京都の証券会社におって、取引所で仕事をしていった人間が、こんど侵略戦争に参加して、それから敗戦を迎え、革命戦争に突入して、またアメリカイズムの華やかな日本に七、八年でもどって来た。ちよっところ、金では買えないような経験をして参りました。

それから以後、中国にいた関係で、中国事

情を知っている関係で日中友好協会の会長、会社の仕事の関係もありましたので、機械技術とか、軽工業の設計の仕事とかそういうことをやっておりました関係で、貿易や文化交流の関係で日中友好協会に入っていたわけです。

その後、二〇年間ほど日中友好協会の理事長を、仕事の関係でさせていただきました。そんな中で、私も考え方が固まってきたといいますが、大切な日本の将来を、本当に正しい人間の性質を、人間ってなんだろう、自由とは、人権とは、民主主義とはなんだろうと改めて問いなおし、本当の輝くような、すばらしい民主主義と自由と人権を私たちの手に取り戻したいと思うようになりました。

日本の現実が、教育界の現状がここまでひどくなっていることを、今日、はるかしながら、いろいろなことを新聞ではみましたが、初めて知りました。

深沢先生のプリントを見せてもらって、今日、芦屋の公平、私はちっとも公平とは思いませんけど（笑い）、本当に言いたいことは一つもされず、うわ面ばかりでやりとりしている。それを先生方も我々も、歯ざしりながら見ている。言いたいことをぶつけるわけにいかんから、日本は法治国家ですから。

私は実際に中国でみたんです。中国解放軍が町にはいつてくる。そこで、労働者、農民

組織として 全力で支援します

兵高教委員長 岩淵徳好

昨年の十二月に組合を作ったばかりで、今日審理があるということまで来させてもらいました。これまでの審理の状況をみておりまして、過去県高支部で支援してきた経過がありますが、県教委もかなりあくどい強制配転人事をしてきましたが、市芦のような教員を他の所にとばすという事例は、かの有名な県教委でさえもやっていない。市芦の問題は全国的にみても稀なケースではないかと思っています。今後、日教組本部ともこの問題を協議し、私共の組織として全面的にとり上げていくことで考えています。大変ですが、小さい組織ですが全力を尽して支援いたしますので、共にがんばっていききたいと思っています。

傍聴記

どこが適材適所や言うねん

尼崎定時制教師 Y

前芦屋市教委小林管理部長に対する市教委側弁護士の主尋問であった。彼は以前本庁の



をしていく。それを受けて小林はボンボンと小声で、そのくせ虚勢を張って、椅子の背に体をまかせ、両足を前に突き出し、ポケットに手を入れた横柄な態度で答えていく。青雲

労務畑にいて、今回の市芦の教育をつぶす役割を果たした張本人の一人だと聞いている。尋問する弁護士も簡潔に尋問すればよいものをまわりくどく時間かせぎと思われる尋問

闘争のときの教育長井野や校長神沢の証言とダブらせて聞いていると、イライラしてくる。肝心の市芦の教師を教壇から追放した理由を引き出すために、弁護士が「適材適所への配置替えだったのですね」と誘導尋問する。

「何が適材適所だ。教員は生徒を前にしてこそ教員なのだ。何、教員の給与体系で身分は指導員（事務職員）だと。そんなばかな、ふざけるんじゃない」という意味のことをヤジっていた。

今、ますます管理統制が強化されるなか、多くの教師はそれを生徒へと転嫁していく。定時制高校の教師が「低児生」と表現してはばからない。だからこそ、これまで多くの生徒にかかわってしごとをする教師が強制配転されていた。

でも強配されてもそこには生徒がいた。しかし市芦の場合はそうではない。ここに市芦の強配のえげつなさがあるのだとあらためて思った。だから「適材適所」は絶対許せない。十二年前強配されたくやしさを持続するために、自分が「今少しダレているな」と思うと生徒の家に行く。そして近くに駅のない寝ぐらまでの4kmを井野や神沢の顔を想い浮かべながら歩くことにしている。

審理の傍聴はヤジを飛ばすとおもしろいことを今日あらためて思った。次回ぐらいの小林への反対尋問を期待して、又行こう。

八月に大分から転勤してきました、二人の娘を持つ、お母さんを自負しています。大分では生協活動を通して、自然の大切さ、環境破壊の恐しさや食物について多くを学びました。平和についても、何かなくてはならないながら、デモに参加する位でした。

一昨年六月に下関で「アウシュヴィッツ展」が開催されていて、この遺品は今後ポーランドから持出し禁止となる貴重な物であり、地域のお母さん達が主催されている事を知り、これだったら私も出来る、私が見たいし、大勢の子供達や、お母さん達と見たいと強く思い、仲間と呼びかけてゆきました。

十人前後の実行委員会を作り、毎年アウシュヴィッツへ視察団が大分から送られている事もあって、多くの先生方の御協力で、一年後の七月に開き、一万人以上の入場者を数えました。目に涙をため、じっと立ちつくす母親、驚いた様子の子供達。そして、十冊のノートを埋めた感想文。

夫の急な転勤でゆっくり皆と話も出来ず、

麦の家・市芦そしてアウシュヴィッツ

田中道子

芦屋に引越して、夫は淋しく単身赴任で神奈川へ、といった今流行の生活をする事になりました。ここに来ても「アウシュヴィッツ展」の事が頭から離れず、「四月までに芦屋で出来ないかしら。どうしよう」と考えていた矢先、学校での学習会に参加し、そこでKさんに会いました。彼女を介して、多くの会や講演会に出席し、多くの仲間に出会えました。

その中で「麦の家」の人達との出会いは私の心を強く動かすものでした。「障害児達を普通の子供と共に生き、共に育てたい」という親の素朴な願いを通ずる、社会や行政と闘ってこられました。彼女達や支援の方の話を聞いて、芦屋も昔に比べると障害者への対応は目に見える部分では進んでいる様子だが、目に見えない、意識や心での対応が大変遅れていて、社会や行政が障害児・者と共に生きて、共に育て合う暖い福祉社会を目指すのではなく、心をかけず、お金だけかけて社会の弱者の問題を解決しようとする時代遅れのエコノミックアニマルを目指しているのでしょうか。

学校のお母さん達と話し、市芦の説明会に行き、芦同協の集りに出席したり、井戸端会議（市芦救援会の）に出て話を聞いてゆくうち、四年前までの市立芦屋高校では、障害児が同じ教室で共に学び合い、悩む生徒を親身になって世話をする先生方が多かったという健全で、理想的な教育の姿を見つけた事が出来た。四年前に九人の熱心な先生方が強制配転で教育現場から遠ざけられ、そしてその先生方が不服申立てをして審理中であり、私も初めて出席してみました。そこで答弁をしている人の後姿を見ていて、私には国会答弁の様で全く教育に対して夢のない悲しいロボットに見えました。まるで彼の背中に「私に責任はありません。命令されただけです」と書かれている様でした。

アウシュヴィッツ強制収容所で四百万人以上、ヨーロッパ全土でナチス・ドイツは一千万人以上虐殺しましたが、ニールンベルグ裁判で全ての将校は「自分は無罪、命令されたのです」といって責任を回避しました。確かにあの最高責任者はヒトラーですが、彼だけの責任でしようか。

まさに市立芦屋高校の問題は過去のものでなく、市芦に通う生徒とその親だけの問題でもなく、今を生きている芦屋市民一人の特にお母さんの意識や心の問題であり、その問題の向うにアウシュヴィッツが見えてくると考え

が立ち上がって、教育委員長、市長、警察署長、裁判官、これを全部人民裁判にかけのを見てきました。しかし、そういうわけにはいきませんので、せめて、はぐるま座の劇「蟹工船」を芦屋でやりたい。六〇年よりも前に日本で行われた現実、現在の状況と一つも変わっておりません。

先日、私の知っている韓国人の青年ですが、「日本人は山口組のバッジをものすごく恐がっているんだ。でも、アジアの我々は日の丸を、あんた達が山口組のバッジを恐がっているのと同じようにして、我々は、……（沈黙）……あの日の丸を見ているんだ……。その話を聞いたとき、新聞に投書しようと思いました。「国際化」、「国際化」っていうんですけど、やっていることは一つも国際化ではない。

そのような状況で、そして、芦屋でも、紛らわしいが先生の名でもって（形だけの教員身分を主張して強制配転）、九人の先生が抜かれた後の子どもは、……（沈黙）……いったいどうなっているのか。……（沈黙）……終わります。（盛大な拍手）

「蟹工船」上演

三月一九日（月）六時開演 一般 二五〇〇円
大学生 一八〇〇円
芦屋ルナ・ホール 中高生 一〇〇〇円
（前売り）

後援：兵庫県教委・芦屋市教委・芦屋地労協
部落解放同盟芦屋支部・麦の家
憲法を守る芦屋市民の会
芦屋の教育を考える市民の会

今、多喜二から受けつぐもの

劇団 はぐるま座

小林多喜二は、私達が最も敬愛する先駆者です。多喜二は「蟹工船」を発表したことが直接的な原因とされ、絶対主義天皇制の野蛮なテロによって二十九才の生涯を閉じました。しかし、多喜二の不屈の精神は、新しい時代の文字・芸術にたずさわるものに、どのような人生をまっとうしなければならぬかを、彼自身の鮮血でしめしてくれています。

思えば、私たち一人ひとりが全国津々浦々から固い決意をいだいて劇団に結集してくるとき、誰もがボストンバックやダンボールの底に大切にものごとを詰めたのは多喜二の作品でした。働く人々のために生涯にわたって舞台で奮闘する、その大きな意味を多喜二に教えられ導かれてきたのです。

私達にとっていつか「蟹工船」を脚色・上演することは年々願ひでした。

「蟹工船」はズバ抜けて大衆的な作品です。

厳寒のオホーツク海で、蟹工船の出稼ぎにやってくるさまざまな人々をとらえて名もない幾千万の下層労働大衆の真実の姿を、ムンムンするような労働と汗の匂いとともに描き出しています。こうした無辜の働く人々こそが社会に必要なすべての富をつくりだしており、彼等こそ新時代の真の主人公であることを多喜二は迫真的に描きだしています。

私たちは、全国各地で働くものの新しい未来を信じ、戦争に反対しているすべての人々にこの舞台を捧げます。そして現代社会という荒波の中を生きぬく勇氣と希望をくみ取っていたきたいと願わずにはおれません。



るのは私だけでしょか。

さて「アウシュヴィッツ展」お母さん達を中心に今着々と進めています。個人の能力を最大限(?)に生かしながら、国際文化都市といわれる芦屋市にふさわしいものにしたと願っています。各方面の方々に御世話になり、迷惑を掛けながら芦屋全市民のものにしてゆきたい。そして観客に単に「アウシュヴィッツ収容所で起った虐殺は恐しかった。可愛相だった」と思わずだけか、「アウシュヴィッツ」

「アウシュヴィッツ」だけではない、日本もそれ以上の事をアジアの人達に行い、ドイツの様な反省もせず、あやふやで今日迄来ている。これで良いのだろうかとか、現在の日本に「アウシュヴィッツ」はないのだろうかとか、自分の中に「アウシュヴィッツ」だけではない、日本もそれ以上の事をアジアの人達に行い、ドイツの様な反省もせず、あやふやで今日迄来ている。これで良いのだろうかとか、現在の日本に「アウシュヴィッツ」はないのだろうかとか、自分の中に「アウシュヴィッツ」

心に刻む……

アウシュヴィッツ 芦屋展

四月五日〜九日／芦屋市民センター三〇一室他
主催・心に刻むアウシュヴィッツ展芦屋市民の会／大人五〇〇円 中・高二〇〇円

1/18 国労スト連帯一日行動報告

地域の共闘拡大し、

清算事業団闘争に勝利しよう

ガンバレ国労清算事業団の仲間！とりもどそう国鉄／阪神地域の会
阪神間では、国労とともに駅長・区長申し入れ行動を中心に取り組まれた。

宝塚駅では、前日国労からの申し入れ書を受けとらなかつた駅長が、宝塚映像労組や阪神の会の粘り強い申し入れをうけて、受け取る判断をしました。

尼崎保線区では、阪神の会や西宮市職労青年部を先頭にした一時間以上に及ぶ申し入れに対して、区長は、論理は破綻してしまっても、受け取れないの一点張りで、申し入れ書を置いてくる形になりました。国労の方から、「四〇人余りの申し入れは、区長以下職場全

員に与える影響がおおきい。国労にはこれだけたくさん地域仲間がいるんだ、という実績がこれからの職場づくりに生きてきます」との発言。

芦屋駅では、今までの取り組みの実績もあり、申し入れ書を受け取りました。地域の西宮・芦屋市職労、市芦救援会等との話し合いについては、人数が多すぎると嫌がりました。結局、国労・社会党・共産党の三者にしばらく交渉しました。

夜の総括集会では、国労より「今日の一日行動についてやり切った。地域の仲間がいた

ウシュヴィッツ」はないだろうか等と、一人でも多くの悩む人を生み出せるか、巡り合えるか、が課題です。皆さん、どうか会場におこし下さい。

から駅長も申し入れ書を受け取った。今後清算事業団・不当配属に対する闘い勝利まで闘い抜く」と決意表明。

阪神の会は、「地域の共闘をつくるためにもに闘う」と決意を表明した。

神戸では、灘・須磨・新長田・元町・住吉駅に勤務する国労組合員を阪神の会一人で激励しました。

住吉駅では本務、元町駅では広域採用の国労の人と話をすることができました。「駅に国労は一人だけだが、要求して掲示板を勝ち取った。国労の年末一万円カンパは闘いをつくるためには当たり前。呼ばれたら、地域のどこにでも行って話をしようと思っている」と言われ、正念場の闘いに取り組んでいる国労組合員の意気込みが伝わってきました。

第五回芦屋教育井戸端会議 報告

学区再編は誰のために行なわれるのか

市芦救援会事務局

二月十日、前回に引き続き、県教委「中間報告」の神戸第一学区と芦屋学区再編成、定通制高校統廃合問題をテーマとして開かれました。新たに県芦高校や定時制武庫高校の先生方の参加があり、論議を深めました。

この間、「学区再編」を既成事実化する形で、PTA役員・管理職・市教委による保護者向け説明会が開かれたという中で、多くの批判的意見が出されました。中学校教師からは、学校長が現場の教師に一切の説明をしないという事態の異常さが報告され、県芦からは、神戸との合区によって一層の学力基準による輪切り指導が強化され、従前の多様な生徒が集まることによって培われてきた自由な校風がつぶされていくのではという意見が出されました。武庫高校からも、西宮の定時制との統廃合が予測される中で、生徒の切りすてが一層すすむこと、その動きに対してOBを中心としての反対運動のとりくみがなされてきたことの報告がありました。

参加された多くのお母さん方からは、「説

明会」のあり様についての疑問・批判が次々と出されました。「神戸高校に入れます」「高校選択の自由がひろがる」という宣伝文句が、教育長の「芦屋の良い高校に行かせたくないでしよう」「公立中学の指導が悪い」という差別的な煽動とセットしてくり返されたと言います。あるお母さんは、「胸がつぶれる思いがした、悲しい話だ。なぜ市芦が弾圧されたのかわかりました」と言われていました。学区再編がほんのひとにぎりにもみないエリートにとっての進学の道を開くのみで、芦屋においては公立高校へ多くの子供が進学できていた道は逆に閉ざされます。スライズ指導という輪切りの中で子どもにとって「高校選択の自由」など存在しないのです。多くの子供が切りすてられることを放っておけないというお母さん方の強い意見は、自分たちの手で反対のとりくみを具体化するという動きにますますすすんでいます。

入試を目前にひかえて市芦の定員確保、学区再編をめぐる見解についての市芦分会・芦

教組の申し入れ書を以下掲載しておきます。
一九九〇年二月

芦屋市教育委員長 黒田久寅殿
芦屋市教育長 松本壽男殿
芦屋市立芦屋高等学校教職員組合
兵高教阪神支部市芦分会

執行委員長代行 深沢忠

県教委高校問題調査研究会
「中間報告」に対する意見及び要請

かつて芦屋学区は、兵庫県平均九五％をはるかに上回る九八・九九％という高い高校進学率を維持してきた。そして、障害児の高校進学への道を開き、芦屋学区は限りなく高校全入に近づこうとしていた。また、他学区に比べて公立高校の開門率は非常に高く、さらに奨学金制度の充実によって、これまでであれば諦めざるを得なかつた子どもの、高校進学を保障してきた。芦屋市立芦屋高等学校の存在を生かし、小中高一貫した教育運動と進学保障制度を軸とした進路保障運動によって、全国的にもずば抜けた後期中等教育保障の取り組みが行われてきた。そして、その取り組みは、全国的にも高い評価を受けてきた。

しかしながら、芦屋市教育委員会はこうした取り組みの本当の値打ちを評価できないまま、「芦屋の教育の正常化」と称して、この全国的にも先進的な取り組みを破壊しようとしてきた。

芦屋においては、一部の市民の間で徹底して受験競争がおおられており、子どもたちの多くが小学校段階から否応なしに受験競争に駆り立てられている。中学校までに全体の三〇％が有名私学へ流出するという事態は異常というほかない。芦屋市教委はこうした一部の市民の間にある受験熱をいっそう煽るかたちで、「中間報告」を既成の事実であるかのように利用して、「神戸高校受験の悲願がかなう」と宣伝し、神戸学区との統合を推進しようとしている。

神戸第一学区との統合によって芦屋の子どもたちに何がもたらされるであろうか。芦屋の約九〇〇〇人の中学卒業生は神戸第一学区の約五六〇〇人との受験競争に巻き込まれることになり、単純計算によると、県立芦屋高校への芦屋からの入学は今年度の三二八人から五八人に減少する。また、従来、公立高校進学を諦めていた神戸の生徒達が、市立芦屋高校を頼って流れ込んでくる。こうして、芦屋学区のこれまでの高率の進学率は平均化され、結果として、ほんのひとにぎりの生徒の神戸高校進学と引換に大量の市芦や県芦に入学できない生徒が生み出される。これは、生き残りをかけた私立高校のきびしい入学試験や定時制・通信制高校の統廃合とあいまって、多くの生徒に不本意な高校進学を強要し、あるいは高校進学の道をふさぐことになる。それ

ばかりか、家庭だけでなく小学校、中学校においてもいたずらに受験競争だけを煽ることとなり、学校教育を混乱させ、あるいは破壊することになる。

昨年、芦屋学区での高校不就学者は三〇名。神戸第一学区のそれは、二三五名である。全県でその数は四三五六人に及ぶ。昨年だけで二二六人の生徒が高校を中退している。こうした状況の中でも兵庫県教委は「進学率は九五％を維持する」との方針を変えておらず、高校から排除された残り五％の高校不就学者や高校中退者の問題は眼中にないのが現状である。

そればかりか、これらの高校不就学者や働しながら学ぼうとする生徒達の最後の拠り所であった定時制高校や通信制高校の統廃合をすすめ、独自の教育活動を作りだし、本来の意味での教育とは何かを問い続けていたこれらの高校の教育活動を破壊する、「単位制高校」を「中間報告」は導入しようとしている。「単位制高校」がもはや働く生徒達の学ぶ場とはなり得ず、高校中退者の受け皿ともなり得ないことは金沢中央高校によって証明されているところでもあり、兵庫においてもすでに白鷺工業高校で失敗しているところもある。単位制高校は、定時制高校の教育を破壊し、高校中退者を再び切り捨てるところとしてしか機能しない。全日制高校での「進路変更」

という名の生徒切り捨てをいっそう促進するだけである。

私たちは、芦屋においてこれまで進められてきたすべての子どもに後期中等教育を保障する取り組みを、今後いっそう推進し、すべての子どもに幅広く進路を保障する立場から、以下のことを要請する。

1. 「中間報告」による神戸第一学区と芦屋学区の統合に反対するとの立場を芦屋市教育委員会が表明すること。
2. 地域の定時制高校（県立武庫高校）を守るため、定時制・通信制高校の統廃合に反対を表明すること。
3. 定時制高校の教育を破壊する単位制高校の導入に反対すること。

一九九〇年二月

芦屋市立芦屋高等学校
学校長 泥 純一殿

芦屋市立芦屋高等学校教職員組合
兵高教阪神支部市芦分会

委員長代行 深沢 忠

申し入れ書

高校教育の「義務教育化」が指摘されて、すでに久しくなります。高校を卒業せずに将来の生活設計を立てることがきわめて困難な社会状況のもとで、高校進学を求める生徒、

父母の声は、今後ますます高まっていくものと思われまふ。しかし、その願いに応えられるほど、後期中等教育の門戸は、まだ十分に開放されているとはいえません。

このような中で、本校においては、八七、八八の両年度にわたって、実に五八名もの子どもたちが定員内で切り捨てられるという、信じられない事態が起きました。本校はもとも、高校全入をめざす市民の運動の中から生まれ、創り出された高校です。本校があることにより、芦屋市は、阪神間でも抜群の高校進学率を誇ってきました。そのような本校が、「定員内切り捨て」という、県下でも他に例のない暴挙に走ったことは、教育の使命を自ら放棄したに等しいと言わざるをえません。

八九年度においては、定員内の切り捨ては、一応行なわれなかったか見えますが、本校としては、市民の間に根強い不安と本校および市の教育行政に対する不信とを一掃すべく、より一層の努力をすべきだと考えます。

本校に入学する生徒の中には、家族の中で高校に入るの自分をはじめという生徒もいます。後期中等教育が受けられなかったがために苦しい生活を強いられてきた父母や兄弟の熱い期待が彼らにはかけられています。人間らしい生活をしたという、あまりにも当然の要求に応えることは、公立高校として

の本校の当然の責務ではないでしょうか。

現に、そのような考えに基づき、本校においては、被差別下にある生徒をはじめ、社会の矛盾を幼い身に背負い込んで、その力を十分に伸ばせずにきた生徒に対する進学保障制度が長年にわたって実施されてきました。しかし、この制度は、ここ三年間にわたって踏みにじられ、進学保障要求をした生徒がつぎつぎと落とされてきています。

進学保障制度は、定員の枠外において完全に行なわれることが筋であり、その意味では昨年の入試も、定員の遵守が行なわれたとは認めたいものでした。しかも、進学保障制度を支える教育条件は、この期間に一举に奪われてきているのです。貴職は、部落研の生徒たちとの話し合いにおいて、「進学保障制度はなくなっていない」と言明しておられるとのことですが、それならば、この制度がしっかり機能していることを、今年こそは誰の目にもはっきり分かるように示すべきではないでしょうか。

最後に、入学時に多数の友を切り捨てられた現二、三年生の中から、さらに大量の中途退学者、長欠者が出ていることを、私たちは看過することはできません。最大の教育条件である教師を一举に減らしたこと、教師の負担を増やし生徒の学習意欲をそぐだけの結果に終わった選択制の導入など、強権によって

押しつけられた一連の施策がこの事態を生んでいることは、いかなる詭弁を弄しようとも否定できるものではありません。いったん引き受けた生徒全員の卒業をめざすという、学校としての当然の責務を果たせる条件づくりに、教育現場の長として全力で取り組まれることを要請したいと思ひます。

入試を目前に控えた今、次の三点にわたって申し入れを致しますので、早急にご回答くださるようお願い致します。

記

1. 「定員内切り捨て」を絶対に行なわないこと。
2. 進学保障制度を完全実施すること。
3. 教育条件の改善に全力で取り組むこと。

一九九〇年一月一九日

芦屋市立芦屋高等学校

学校長 泥 純一殿

兵庫県教職員組合芦屋支部

支部長 桜井輝之

申し入れ書

今年も、中学生の進路先決定期がやって来しました。高校進学問題については、父母・市民の強い関心と不安の声が、私たちの下にも寄せられています。それは、後期中等教育が「義務教育化」しているという現実があるに

もかわらず、いまだに、希望する子どもたち全員が進学できる条件がつくられていない問題が存在していることによるといっても過言ではありません。

特に芦屋においては、八七年、八八年と、合わせて五〇数名にのぼる子どもたちが市立芦屋高校から定員内で切り捨てられたという教育現場ではありうべからざる事態が引き起こされ、父母・市民・子どもたちの中に残っている不信感は根強いものがあります。昨年は確かに「定員内切り捨て」はありませんでしたが、それだけでは不信と不安は払拭できないほどの亀裂を残しています。

「切り捨て」られた子どもたちの、その後の進路は、いまだに困難をきわめています。芦屋では、普通高校進学希望が圧倒的に多いわけですが、それを、定員に「あき」がありながら、強引に進路を変更させることなどあってよいわけがありません。五〇数名の中の多くは、いまだに、将来の生活設計はもとよりのこと、現在の生活を維持することすら出ずにいる状況です。公立高校入試決定後の進路変更は、現実的に困難ですし、一五才の子どもたちの心理状態・発達段階から言っても大変なことであります。そのことは貴職も十分にわきまえておられることだと思います。昨年報告された芦屋市「教育行政調査」(パートⅡ)の「まとめ」においても、進学・受

験・塾問題等で、全国に比較してその過熱ぶりが述べられています。そこから来る子どもたちの「ゆがみ」も分析されています。受験競争の緩和こそが、芦屋においても、まず第一に配慮されなければなりません。その観点からも、「定員内切り捨て」はしてはならないことです。

一九九〇年を、わたしたちは、「高等学校教育義務化元年」と位置付けています。これからの社会を生き抜いていくためには、どの子にも後期中等教育が必要です。激動の九〇年代、そして未知の二一世紀にむけて羽ばたく力をつけていく場を保障することはわたしたち大人の責任です。子どもたちがみずからの力で考え選択した進路を、権力的に変更を迫るやり方は、認められません。教育の場では、どんなことがあってもしてはならないことです。

市立芦屋高校は、芦屋の子どもたちのすべてに後期中等教育を保障したいという市民の熱い願いを込めた運動の中から生れ、創り出された高校です。その高校から定員内でありながら市民の子どもたちを締め出し、将来の展望を失わせることは、学校長としてすべきことではありません。教職員と子どもたちや親との信頼関係を失わせ、教職員の意欲をも奪い取ってしまう「定員内きり捨て」を繰り返してはなりません。

各地でのたたかい

伊丹市行政による 在日朝鮮人差別を許すな!

伊丹市での朝鮮人差別を考える会

昨年八月六日、伊丹市中央公民館で開かれた『語りあう広場』(『平和フォーラム』の一環で、この日は映画「解放の日まで」と鄭

鴻泳氏の講演のあとで感想を語りあった)で、伊丹市行政による李富南さんに対する卑劣な差別事件が報告されました。

昨年一月にオープンした老人施設「ケアハウス」食堂部門の準備に一年前から従事しながら、開設十日前になって突然「採用しない」ことを通告されたものです。

事の発端は八七年十一月、市職組合幹部T氏から「ケアハウスが市の退職者再雇用と障害者対策の二つの看板をにかけてできる。食堂の運営等の委託をうける会社の重役になってくれ」との話がもちかけられたことです。障害者の娘さんを抱えた李さんは希望をもって加わりました。しかし、八九年十一月設立の会社の責任者から李さんははずされたのです。その動きはT氏が「外国人が重役になるのは問題があるそうや」として、自民党のある議員にも相談をもちかけ、「外国人が役員

にいと事業の委託にも困る」と言われ、はずされたのです。

人一倍働きつづけてきた李さんは、それでもケアハウス開所準備で、無給で研修に専念していました。準備計画もすべて李さんが立ててきたのにエゲツナイどんでん返しが始まったのです。八九年一月に入り、行政のトップから組合幹部と会社の重役に対し、「食堂の運営は消費者協会に委託する」と通告。突然のことと断わる消費者協会に対して、市長が「絶対にやってほしい」と強引に押しつけました。

李さんはたまたま、消費者協会が食堂に送り出す人の中に自分ともう一人の仕事仲間を入れてほしいと頼みますが、それも「今さらできない」と断られました。李さんはこれまで五〇年近く生きてきているんな目に会い、自分の思う仕事ができなかったのが、今回はじめてできるとして、一年以上もこのためにすべてをかけ、自腹で研修にも行き、組合幹部から話しかけられた障害者対策、老人食と

つきましては、以下のような申し入れを致しますので、早急にご回答をしていただきますようお願い致します。

記

1. 市立芦屋高校の定員内「切り捨て」は、中学校現場の進路指導を困難にするだけでなく、子どもや親の願いに逆行するものであり今後ともしないこと。
2. 進学保障制度を堅持すること。

活動日誌〈抜粋〉1990.1.18～2.14

- 1・18 国労スト支援行動に参加。
- 19 アウシュヴィッツ展駅ビラ配布。
- 20 兵高教尼崎支部結成大会に参加。
- 23 九〇春闘阪神実行委に参加。
- 25 芦屋地労協定期大会。
- 26 「蟹工船」公演実行委に参加。
- 27 アウシュヴィッツ展講演会。兵高教旗開き。
- 31 通信発送。アウシュヴィッツ展実行委。
- 2・2・3 芦同教研究大会に参加。
- 3 第二四回公開口頭審理。兵高教阪神支部結成大会に参加。事務局会議。
- 7 関西争議交流会定例会に参加。
- 8 芦屋地労協常任幹事会。
- 9 兵高教臨時大会。分会拡大闘争委。
- 10 第五回芦屋教育井戸端会議。
- 14 「蟹工船」公演実行委に参加。分会拡大闘争委。

いうことへの夢もあり、行政も加わってやってきたことが、このようなドンデン返しに会ってしまったわけです。

この背景には、李さんが朝鮮人であり、なお本名を名乗って生きていることに対する行政側の姿勢があらわれています。

伊丹市行政に対して死をもって抗議しようと思いつめていた李さんの深いショックと怒りを聞き、私たちはこの会を作りました。昨年一〇月には、伊丹市行政と李さんの間にいた市職組合幹部のT氏から事実を確認する会をもちました。しかしT氏は「差別はしていない」と居直りつづけてきました。その後、市職労委員長との話合いの中で、組合として取り組んでいくとの誠意ある対応によって、十一月にはT氏が改めてこの会と会い、事実を少しづつ明らかにしている状況です。

これらの事実経過を含めて、十一月二六日に伊丹市労働福祉会館で会としての報告集会を開きました。その中で李さんからは、今まで朝鮮人として本名を名乗りししかも障害児を抱えて生きてきたことの一端が語られました(後掲)。「朝鮮人だけの問題でなく、あくまで日本人が考えて行かなければどうにもならない問題ではありませんか」との問いかけを受けとめ、私たちは今回の問題を広く伝えていながら、問われているものは何かを多くのの人々と一緒に考えていきたいと思います。

■伊丹市行政による在日朝鮮人差別事件 2

「福祉の店」そして「はこべ作業所」でも

李 富 南

実質店長の仕事
それでもパート

福祉の店、私行った時は、娘がまだ小学校五年生だったんで、まだまだ一日中できないので、あの娘帰る頃には家に帰るという条件で、二時には帰らしてもらおうというパートで入ったわけ。日曜も営業だったんですけど、私は休ませてもらうという、とにかく障害もった娘を中心に働かしてもらおうという条件で行かしてもらったんです。そして一年目にして店長が崩れたんです、あることで。退職したんです。店長不在の状態の時、すでに私はだんだん時間的には四時までいたり、五時までいたりするようになってたんですね。その頃私はバックで働いていたんです。裏の仕事、魚のパック詰めとか、そういうところで働いていたんですけど、その店長やめると同時に経理も一人、障害者がいたんですけど、その人もやめるという状態になって、「ど

うしても李さん、あんた事務所入ってくれんか」となったんです。で、私が事務所してる中で、品物や経理とか経営ののんを見てたら、このままやったらとても店もたん、つぶれるんじゃないか、と私は予感したんです。ほんで、こらあもうしょうないわ思て、だんだん私が動き始めたんです。

そうなると、どんな仕入れまで自分がしだしたりしてね。これは自発的なんですね。そうでないと崩れるという予感は確実にしました。役所相手にしたら、電話で注文してもらってくる、そんなんじやとても駄目なんですよね。目茶苦茶な品物が届いたりね。で、私これじゃ潰れるし、潰れてしまたら、もう障害児雇われへん、私はもっと障害児雇用したいという夢があったのですね。ほんで今度自覚的に自分が商売しはじめたんです。すると、だんだん私におんぶついている形にね、だけど私はそれをせざるを得なかった。してくれとは言われなかったですよ、最初はね、でもせざるを得なかった。自発的にずっとやっ

で、まあ、そういう中で二年目から、店長代理みたいな形で三年間やりましたね。ほんでずっとやって四年目にして初めて私は、F

さん（行政から福祉の店に出向していた責任者）に抵抗したんです。三年目かな。この間、店長も経理もなし、すべて私がやってたんです。Fさんは、毎日来てたけれど、店の仕切りはもうとにかくほとんどの私がやってる感じで、Fさんとばして役所行って課長と話したりせざるを得なかったという場面もあるんです。Fさんは、「あなたが店長代理のつもりでやってくれ」とかね、口ではいってるんですけど、Fさんだけではなくて、課長も民生部長もすべてそういう風に私に言っていたわけですね。（その時の民生部長は今の助役（Y）です。だからY助役は民生部長からのずっとずっと付き合っていたので、私の気性というのをみなご存じなんですね）

で、四年目（？）ぐらいから私はFさんに「私は何時までたっても、私だけはパートの状態やけど、どうしてくれるんや。あなた朝鮮人というのは正社員に絶対入れないつもりですか」いうて、ものすごいごてたんです。今までそれ言わなかったんですね。いっつも、こんなんや式で黙っていたんですね。それでやっと言ったら、「じゃ正社員にしよう」ということで保険とかやっに入れたんですよ。でも店長ではありません。言葉だけの責任者

です。

「あんたが日本人やったら
絶対店長にしているよ」

そういうところで、なんか私のすごい屈辱感したのは、ようあそこ見学者とか沢山来られるんですね。県外からもね。障害者のミニ・スーパーいうたらものすごいもてはやされた時期ですのですね。今はもう全然話題にものぼりませんけど。その時あは市長の自慢の店だったんですよ。市長は次から次へと自慢の何かを作っていくんです。でも今は福祉の店に興味ありません。まったく。だから今やったら「店長、李さんにしてもらえ」そう考えるかも知れません。ケアハイツは、今はダメなんですよ。あれが全然すたれて、だれも話題のぼらんようになったら入れるかもわかりません。ケアハイツも市職員としてやったら駄目やろけども、市職員違いますやん。それでも駄目なんです。自分の自慢の建物ですから。

だから福祉の店も、当時県外から沢山来はった時に、課長なんかは、説明して歩く時にね、社協だってそうなんですよ、説明して歩く時に、見学の人が必ず中味聞きますね。で、「仕入れ誰がしてますか。」というて聞かれたら、「市場のいろんな業者が全部協力し

ですけれど、時間帯がまたすぐ長くなっていくんですね。朝一番の仕入れから夜七時までという感じですね。それで裏の人が「李さんをあまりにも働かしすぎじゃないか」ということでね、親の会のお母さんがね、「やっぱり手当てを渡してくれ」と言ったんです。でも最初は全然なしでね。勝手に行って、いうこととで言われてたんです。市場なんかも行ってくれという頼んだ覚えはない、彼女は勝手に行ってんやから、手当てつけるわけにはいかん、という感じですね。それが二年ぐらい続きました。それはそれで私「そうよ確かに私勝手に行ってんやから結構です」いう、そういう点は、全然こだわってなかったんです。私自身が二年ぐらいやって、裏の人がたまらなくなつて、「李さんみたいにね、そんなお人好しやったら馬鹿を見るから」言うて、もうなんぼ役所の方行っても駄目なんです。ある人が直接課長のとこ電話したんです。ある主婦がね。ほんでとにかく仕入れに行ってる分いくらかつけてくれたんです。

て入れてくれる。」私がしてることを一切言いません。ほんで当然私は店長席みたいなところでずっと座ってますわね。それがその時は席をどきます。ほんでお茶入れたりしてる時に、「事務員です。」と。見学者が帰った後、「何ですか、あの紹介の仕方。」と言っても駄目。「あんたが責任者やから、それでええやないか」これで終わり。課長も堂々とそういうことしますからね。

福祉の店で、私はずっと正社員になれ、保険に入れたけど、けどいくら働いたって、ほかに探しても店長がいけないのに、私を店長にしなかった。それはわたしが朝鮮人やいう、それしかない。裏のあるお母さんも言ってくれました。「あんたが日本人やったら絶対にしてるよ。」いうてた。だからその名前が邪魔やいうことね。もしか私がね、「同じ朝鮮人でも通称名使ったらどうやる？」ってふっと思う時があるんです。それやったら、また少しは違ってたと思うんです。というのは、私いろんな面でそれを感じる時があるんですよ。福祉の店だけじゃなくて、今まで生きてきた中で。

朝鮮人であるが故に
なめた屈辱の数々

子供を学校に入れる時も「通称名使っても

ないやろと決断下しはったそうです。とにかく「民族差別いのんは、これはおかしな」とやと思う。(私そういうことずっと話したことあったんですよ。)だから当然なれるんやからということで、市長の方へ行ってみたい「言うんです。「もうあの人を店長に据えよう」ということで、課長も一緒になって納得したそうで、みんなが「じゃあそうしよう」となったんだそうです。それで市長に最終的に行ったんです。でもそれもおかしな話で、福祉の店、半官半民でしょ。その店長まで市長が口出ししはるんやからね。民生部長あたりが口出しするということもおかしいのにね。で市長が来たんです。その日前もって電話で課長から「今から市長が行くから」「その件で行くから」と言われた。「行くからちゃんとお対応してくれな。」と言いはったんです。明らかに私に会うために来はったんです。で「名前なんですか。」とか「家族構成は」とかね、で、名前いうたら「書いて下さい。」と。書いたら「ああ、外国人ですか。」というふうな言い方ね。私のこと知らなかったら「あっ、外国人ですか。」やねんけど、きちっと何年も働いてずっと見てきて、「名前は」いうて「書いて下さい」いうて書かしというて「外国人ですか。」とはなんたることですか。で、私ね、やっぱりこれ念押しとかなあかん思てね。課長のとこ行って、「市長私の事知

らえませんか。」と逆に言われたんです。そこは一切朝鮮の名前で行ってる子がいてなかったんです。尼崎の明和小学校といってね。そこに入れる時に「お母さん通称名使いますか？」と言ったんで「どうしてですか？」と言ったら「いや、みなさん日本名で来てますし。」とうろたえてはったんで、「ああ、みな日本名やったら、朝鮮人おんのわかって、朝鮮人が見えなくて、その学校名は傷つかんけど私なんか朝鮮人の名前であってだけで学校名傷つけられるというね、そういう何か持ってるんちがうかな。」という印象を受けました。でも私は「いえ、私はこれしか持ってませんので、これしか私は生きてきたことありませんので、今さら変えられません。」ということ、そのまゝだったんです。だからそういうこととか、それから私、こっち引越して来た時に、まあ、あそこじゃとてもうちの子、障害児はつぶれるし、何とかするためにと思つて、有岡に引越したんです。引越して来た時に、引越す前にですよ、入学式のもうホント前日ぐらいまで走りまわりました。その一月ぐらい前から周旋屋ずっと寄つても、どこもなかったんです。私の名前みてどこも貸さなかったんです。それで私の友人三々四々が寄つてたかって探したんです。それでその友人が「あんたも通称名使いいよ。もうこの際しようがないから一

回使いいよ。」って言いました。私、もうそれ使うというのは、私にしたらものすごく屈辱を感じるんですね。でもどうしても今借りとかな学校変われない状態でしょ。もう困ったんで、一回じゃあ涙をのんで変えてみたんです。すると一軒あった。あったんですけど、家族構成を見て、母子家庭で蹴られました。私そんなに蹴られるんやったら、何も屈辱味いながら通称名に変えることないわ、一回じゃあ体当たりで探してみようと思つたけど結局なかったんです。ずっとずっともうどうすることもできないんです。で、私兄妹にとか泣きついて、もう、伊丹に住まないかんし、家は無いし、誰も貸してくれないし、「もうどうしよう、どうしよう」言つてて、ちやうど何か文化住宅風な何戸かぶあゝと棟続きの建て売りがあったんでね、うちの兄が「それ一回じゃあこつちが払うから」ということでそこへ入ったんです。現金やから朝鮮人でもいいんですよ。それで入って、その次に駐車場借りるのに往生したんです。どこも貸してくれないんです。それで、一軒あいてて、他の人が「私引越すから、ここあなたのこと家主さんに言つてくから、絶対貸してくれる。」って言ったんだけど貸してくれなかったんです。しょうないの。もう駐車違反ひっかかるし駐車場借りないかんし。私ひとつだけずっと今迄屈辱感じてるのは、今

駐車場借りているのは日本名です。腹立ってしょうがないけど駐車するとかないんですよ。ちやうどね、私Tさんの話こないだ聞いたんです。けども、妹さんが今から考えると妹さん、近所に住んでたんです。有岡の。その時に、あの人も文化住宅に住んでた時に、私にちらっと「自分の住んでいる所空いた後も『絶対に朝鮮人に貸さない』って家主さん言つた。」って。障害者も危険だから貸してくれませんか。障害者抱えなくても、母子家庭というところで、親の留守中に何するかわからへんからって貸してくれませんか。どうして生きたらええかわからへん。だからね、住むとこ自体もね、もうそういうふうな結局借りれなかったんですよ。やつと借りれたんじやないんです。結局住めなかった。お金で買っただけなんです。だから朝鮮人はね、「この世の中は金や」思つて、がむしやに働いて金もうけするんです。その方が勝ちですもの。私ら、それができないから、いつまでも、一生負けですわ。

「ああ外国人ですか」(市長)

もう一度私が店長になれなかった経緯に話をもどしますけど、私がやっと正社員になつて、当時Y民生部長が、私を店長にさす以外

らなかったんです。私の名前も、外国人やいうことも知らなかったんです。いうたら、「そんなはずない。きちっとこちらから報告しとる」いうた。私きちっと念その時押しとききました。

ほんで、後の方で、もう四年も五年もたつて、市が気にいった店長も次から次と辞めるし下降気味になったからいうて、誰もおれへんし、「李さんに戻ってもらいなさい。」と言いはったそうです。そんなおかしな話あります。か。「市長はあんたをかってたんや。差別じゃない。」言われたって、私、そんなそんなん勝手やと思うわ。今それBさんも言ってるでしょ。「市長はかってるはずや。だから差別はない。」という風な言い方、Bさんしたんです。

娘のため、すべてを賭けた 作業づくりだったのに、そこでも

私、市長が来てからも後約一年、福祉の店で働きました。まだずっといてる気だったんです。よ。どんな立場であろうと、私は。だけど我が子も年令考えると、ぼちぼち作業所作りせないかんし、他の親からもやってくれへんかいいうことで、福祉の店やめよう思つたんです。その時Y部長に、ものすごく引き止められて、「絶対にあいならん。」て怒られま

した。でも私その時、「それだけ私があのお店に必要なとは、今まで感じられませんでした。」いうこと話したんです。そしたら「あんたは福祉の店捨てて行く気か。」とかいう風なことを言われました。私自身もうとくに捨てられた状態ですと生きてきたのにね。私は店長になれなかったからいうて、すねて出た人ではなくて、とにかく作業所作りせなあかんということを出たんです。

チョスギが中三の時に、今から準備やつとして、ちよつとでも資金のメドついた上で作業所つくる思て、中三の時出ました。それで食堂始めたんです。みんなで出資して、お母さん方四々五人で出資金出しておうて、(マスコミにも取り上げられましたけど、後は知らん顔ですけどね。)で、食堂経営して、ちよつと半年後にチョスギが卒業する段階だったの、アパートみたいなのと借りて作業所作り始めたんです。

その作業所が約二年ですか、続いた時に、会長の様子が少しあやしくなつたんですよ。私らと一緒に出発した人が初め副会長だったんですが、一年たった時点で、会長になつたんですよ。すると行政との関わりあい深くなつてきますわね。課長(S障害福祉課長)は、「作業所に補助金だすから」という話を会長にしたらしいんですね。ずっとずっと私に内緒でね。そして市の補助金受けてやると決

まった時点で私に言ってきました。「もう親の会の運営にするからあんた手を引いてくれ」いうて。私は補助金もうたら、そうなるのではと初めから心配だったんで反対してたんです。でも決まってしまうと、私は「まあさんやったらまあすで仕方ないけど、何も手を引くことないでしょ。」いうて。でもどう言っても「役員にはあなたは入れてないんです。」いうんです。その時私もう寝込みましたよ。

で私S課長にもう何回も訴えに行っただけです。けど、なんかうやむやな返事ばかりでとにかくすばっと切られたことだけは、確実なんです。で、私は「あれだけ自分が賭けてた福祉の店もやめ、作業所に賭けよ思て賭けてきたのが、またはずされた。なんのために私はこんなまでしてきたのか」と訴えたんですね。S課長の言い訳は、「お母さん方みんなが理解するためには、メンバー交替せいかんのや。」とか言う風な言い方してましたけども。私は「主婦の立場やったら、そら役員交替もいいでしょう。けど私はしごとなんですよ。私主婦じゃありません。これを仕事としてやってるんです。もしか私が男やったら役員交替できますか。それで生活し、それで生きようとしている人を替えられますか。私は役員交替の中のメンバーには入りません。主婦とちがうんです。」と言っても駄目なんです。「とにかく交替」というだけ。

だいぶたってから、ある人から聞いたなら、ある時に会長に「どうして李さんはずしたの」と聞いたら「役所は外国人がかんでたら駄目なんだ。だからもう仕方なしにやった」と会長が言ってた、いうんですね。「ほんとにそんなこと言ったの」と聞いたら、「言った」というんです。

李を「役員からはずせ」との行政指導

で、私ね、一つずつ絶対確かめな思てね。ただ推測だけの部分が多いしね。嫌やしね。でも、あの時、会長に行政指導絶対あったと思うんです。で、課長にも問い詰めたと思て、最近会ったんです。で、「課長、あの時どうだったの。あたしをはずせと言ったね」と問い詰めたら、S課長「言った、はずせと言った。すまん、悪かった。」と謝るんですね。で私、ほんと、腹立って「そのために私の家庭がどんなに目茶苦茶になったか知ってる。私があれからどんな風な生き方したか、どんなして暮らしてきたか、知ってるの」課長はただただ「悪かった」と謝るだけでした。でも、私は、決して許せない。

私はこれまでいろんな目にあって、その度に腹が立っても、相手にどうしてもあんなが

必要だと言われれば、しょうがないなあと思ってしまう。そうしなければ生きてこれなかったんです。差別意識があるからとか、それとかで、その人達を切ったのでは、この日本で生きていけません。いつも、こっちが我慢してのみこんで屈辱感ながら、そんな人達の「良さ」を搜して付き合っていく方法でしか生きてこれなかったんです。こんな悲しい、さびしい生き方しかなかったのよ、私には。みんないい人達です。何も悪い人とは言っていない。私は今もそう思ってる。でも事実は事実として語りたい。その事で非難されたり、事実を曲げられるようなことがあれば、私は闘うつもりでいます。そんなことは許せない。もう私の歴史（差別的）、このへんで訴え、語り継いでいきたい。

